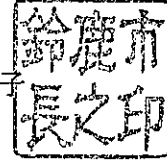


令和4年1月25日

鈴鹿青少年の森を愛する会 様

鈴鹿市長 末松 則子



令和4年1月14日付けで提出いただきました公開質問状（要望書）につきまして、下記のとおり回答します。

記

1 市民や公園利用者に知らせず、サッカースタジアム計画を進めたことについて市長の謝罪の文書&記者会見を求めます。

本市として、三重県、運営事業者である㈱アンリミテッドとサッカースタジアム建設計画について協議、調整を行い、進めてまいりましたが、建設自体は、運営事業者が主体となって検討していることから、これまで協議がまとまった段階において、報道機関を通じて市民への周知を図り、議会への報告をさせていただいています。

昨年10月には運営事業者が説明会を開催し、担当課も出席し説明をいたしました。また、12月には、鈴鹿青少年の森を愛する会の代表の皆様方と面会し、本市としての考えをお伝えさせていただきました。

スタジアム建設については、賛成の声も多くいただいております。引き続き、多くの方にご理解いただけるよう丁寧な説明と情報提供に努めていきます。

2 「公園利用者」や「市民」へのきちんとした説明と合意形成もなく、また森の公園「ため池」利用者、周辺地域への環境面の影響などへの説明を疎かにしたスタジアム予定地の「樹林皆伐」計画、「造成による樹林破壊」計画の全容について、市として明確に、すべて示してください。

運営事業者において、今後、スタジアムの建設について発表、周知を行います。建設にあたっては、三重県からの設置許可条件に基づき、移植、植栽を行うなど、公園内の景観の調和を図るよう運営事業者に指示しています。

3 運営事業者の内紛について市長が「注視している」内容とそれへの認識を聞かせてください。

元役員からの告発については、運営事業者から説明を受け、一定の理解をさせていただいたところですが、現在、警察の捜査状況やＪリーグ、ＪＦＬ（日本フットボールリーグ）の判断を注視しているところです。

また、元役員への企業としての対応については、コンプライアンスやガバナンス面から問題がないと言えないことから、社会的信用の回復に努めていただくとともに、公表が可能となった時点で速やかに説明責任を果たすよう運営事業者に要請しています。

4 運営事業者の現在の資金力、建設にかかる予算・事業計画、資金計画、運営の収益性、健全性、持続性をしっかり把握し、スタジアム構想が地域環境にマッチする入念な配慮について市として把握しているすべての詳細情報を「工事前に」必ず公表してください。

運営事業者の資金力等につきましては、チームがＪリーグから、Ｊリーグ百年構想クラブの認定及びＪ３クラブライセンスの交付を受けるにあたり、財務面の審査も受けた上で、認定や交付を受けていることから、本市として一定の評価をしているところです。

また、スタジアム建設に関しては、本市においても資金計画等の確認は行っていますが、公表については、運営事業者からスタジアム建設発表時に行っていただくこととしています。

5 スタジアム建設事業費は８億円とされていますが、最新のスタジアム造成計画をみると、２つのグランドとクラブハウスと小さな仮設トイレが描かれているだけです。Ｊリーグ基準のスタジアムはＪ３でも観客用設備として３０００の固定席、すべての観客席を覆う屋根、トイレ、コンコース、飲食売店、競技用施設として、大型映像装置、照明など細かく決められています。Ｊリーグの試合ができるスタジアムを完成させるには、これから１００億円以上の資金が必要です。㈱アンリミテッドだけでは到底建設できると思えませんが、市としての認識はどうでしょうか。

スタジアムについては、運営事業者において、まずはＪ３規格のスタジアム基準を満たすように計画的に整備を行っていただくものと考えております。すべての設備を最初から具備する必要はなく、Ｊ３リーグの開催は可能であると認識しています。

6 事業が行き詰まり経営破綻した場合、或いは貸与終了後の「(樹林皆伐・切り土・盛り土の)原状回復」のリスクが市民にも議会にも全く明らかにされていません。その時、公費(市民の税金)を使つての補填は全くありませんか。

まずは、運営事業者において、経営基盤を強化、安定化させ、健全なクラブ経営を行っていただくものと考えております。万が一、事業遂行に支障が生じた場合については、運営事

業者、関係者、本市及び三重県が協議をすることと考えています。

7 「スタジアム」の波及効果、「地域活性化」の経済効果が謳われていますが、鈴鹿市の想定する具体的な効果をすべて箇条書きで示してください。

現段階で想定する具体的な効果は次のとおりですが、このほかにも様々な効果を期待しています。

- ・「鈴鹿」ブランド、シティセールス効果
- ・地域の誇り、コミュニティの醸成
- ・青少年の健全育成
- ・他の地域資源と連携した観光振興
- ・雇用機会の創出
- ・青少年の森公園の活性化
- ・スポーツを通じた交流の活性化
- ・スポーツ実施率の向上
- ・他のスポーツとの連携、相乗効果
- ・防災拠点としての活用

8 スタジアム基礎基盤整備によって湧き水、地下水脈の乱れや閉塞、気候変動に伴う線状降水帯の大雨に遭遇した場合の生態系への取り返しのつかない影響、下流農業者への下水、濁水等の被害の想定を明らかにしてください。

スタジアム建設に関して、大規模な掘削工事やボーリング工事は行われませんので、湧き水や地下水脈への影響については想定していません。

また、生態系への影響については、三重県自然環境保全条例に基づき、運営事業者側が適切に対応をしていくと認識しています。

下流域への農業への影響や濁水などについては、運営事業者において、これまで通りの流水を確保するため、地下埋設管で通水する予定です。